

パネラー：千葉大学教授 清水忠男
フロアワール

1966年多摩美術大学卒業。1978年クランブルック美術大学院修士課程修了。博士(工学、東京大学(1997年))。創持勇デザイン研究所、サバーティックグループ主任デザイナー、ソントナ美術学部助教授を経て、1991年より千葉大学工学部教授。米国工業デザイナー協会年間最優秀賞、ID誌年次選抜部門最優秀、日経ニューオフィス賞、産商産業大臣賞等入賞多数。著書「ふれあい空間のデザイン」(朝川をデザインする)等。

パネラー：湘南工科大学准教授 土屋雅人

フロアワール
1982年京都市立芸術大学卒業後、三菱電機株式会社入社。デザイン研究所にてプロダクトデザイン、インテリアデザインを手掛ける。2003年より湘南工科大学機械デザイン工学科にて、人間工学、感性工学、基礎造形などの授業を担当。地域と連携した防災マップ(ハザードフリーマップ)などの情報デザインの研究を進めている。湘南工科大学 准教授。工学博士。

学生プロポジション in 湘南・学生の構想力

デザインを学ぶ人々が、その中で創作した成果を相互に開示して交流することは大事なことです。そこに自分たちと他者の創作の類似と差異を見いだすことができずから、学びとつたデザイン力に対する確信とさらなる創作の思考とスキルの拡張を手に入れることができます。もうひとつは、この学会の対話と議論に、創作と創作物を取りもどすことの試みです。この学会の議論は、ともすると創作の前後にある課題や評価とそれらの

平成19年度日本デザイン学会秋季企画大会事務局

お問い合わせ先

〒251-8511
神奈川県藤沢市辻堂西海岸1-1-25
湘南工科大学 機械デザイン工学科 和田精二教授研究室
TEL (0466)30-0217

大会実行委員長 和田精二 (湘南工科大学)
大会実行委員 大平智弘 (武蔵野美術大学)
白石 学 (武蔵野美術大学)
須永剛司 (多摩美術大学)
土屋雅人 (湘南工科大学)
永井由美子 (多摩美術大学)
中嶋猛夫 (女子美術大学)

平成19年度 日本デザイン学会 秋季企画大会

THE SYMPOSIUM OF JAPANESE SOCIETY
FOR THE SCIENCE OF DESIGN

安心・安全のためのデザイン力

同時開催：学生プロポジション in 湘南・学生の構想力

応用美術として誕生して以来、デザインは領域を拡大させ方法を革新しながら今日に至っています。それはインタラティブデザインやデジタルデザインの出現等からも理解できます。今、最も重要なテーマは、生産側のデザインからユーザー側のデザインへの転換です。しかし現代のようにユーザーが多種多様になると、すべてのものへの画一的デザインが難しくなるように、公共デザインの場合にも大きな困難が伴います。そこで注目されるのがユニヴァーサルデザインの哲学です。ここでは、これまでのように標準化されたユーザー

を対象とするのではなく、多種多様なユーザーに対応できるデザインを目指しています。今季の企画大会ではこのユニヴァーサルデザインを取り上げ、「安心・安全のデザイン力」というテーマのもとに記念講演、シンポジウム、パネル展示を行います。また、初めての試みとして学部学生を中心としたパネルの展示発表を同時開催します。「学生プロポジション in 湘南・学生の構想力」と名づけたこの企画が、学会員になれない学部学生の発表と交流の場として有意義なものになることを期待しております。

主催：日本デザイン学会

期日：平成19年度9月15日(土)

場所：湘南工科大学 教育研究総合センター

大会日程

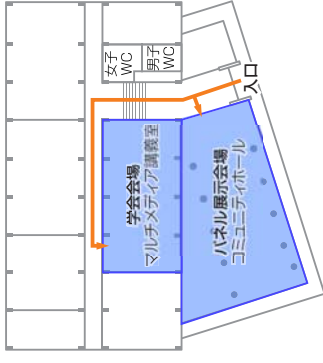
安心・安全のためのデザインカ		学生プロポジション in 湘南学生の構想力	
11:00	開場	09:00	展示パネル設置開始
13:00	開会挨拶 杉山和雄 デザイン学会会長	11:00	県立辻堂海浜公園へ移動 ユニバーサルカヌー体験会 <昼食>
13:10	各賞表彰式	13:15	大学へ移動
13:30	大会記念講演 「UDの現場から構想される安心へのデザインカ」 講師 荒井利春 金沢美術工芸大学教授	14:30	展示説明 「学生プロポジション in 湘南学生の構想力」
14:30	展示説明&ティーブレイク 1) 「学生プロポジション in 湘南学生の構想力」 学生自身による企画展示 2) 「安心・安全のためのデザインカ」 学会員・研究室による展示	15:00	シンポジウム「安心・安全のための環境づくり」 パネラー 太田幸夫 多摩美術大学教授 清水忠男 千葉大学教授 土屋雅人 湘南工科大学准教授 コーディネータ 長谷高史 愛知県立芸術大学教授
17:00	閉会挨拶 和田精二 大会実行委員長 湘南工科大学教授	17:10	展示物撤出
17:30	懇親会 大学内「シーサイト」	17:30	懇親会 大学内「シーサイト」

大会会場

キャンパス(学会会場と懇親会場)



教育研究総合センター(学会会場とパネル展示会場)



大会記念講演

金沢美術工芸大学教授 荒井利春

プロフィール

1972年東京教育大学芸術学科工芸工業デザイン専攻卒業、(株)日立製作所デザイン研究所勤務後、高齢者や障害のある子供たちの道具製作や設計活動をおこなう。1985年より金沢美術工芸大学にて、道真からまづくりまでユーザー参加型UDの実証的研究を続けていく。それらの成果は国際デザインコンベンやGマーク特別賞など多く受賞している。

シンポジウム

コーディネーター：愛知県立芸術大学教授 長谷高史

プロフィール

1972年東京芸術大学美術学部工芸科デザイン専攻卒業、受託者受託。1974年同大学院美術研究科インダストリアルデザイン修了。同大助手、環境造形デザイン講座設立に参画、同非常勤講師を1984年まで勤めた。1980年、長谷高史デザイン事務所設立。プロダクトデザイン、環境デザイン(パブリックデザイン)領域での作品を発表。Gマーク及びGマークロングライフ、建設省景観デザインプログラム(春田大橋)など受賞多数。国、地方自治体等の景観行政に参画。2004年愛知県立芸術大学教授就任。現在 愛知県立芸術大学美術学部長 同大学院研究科長 愛知公立大学法人経営審議委員 東京国立博物館委員 研究員、早稲田大学非常勤講師。著書「公共空間のデザイン、パブリックデザイン事典、シビックデザインなど多数。

パネラー：多摩美術大学教授 太田幸夫

プロフィール

1962年多摩美術大学美術学部図案科(平面)卒業、1963年同研究所修了。1966年イタリア国立美術学校修了。1980年よりISO国際標準委員会国内委員。1997-2005年日本デザイン学会会長。1992年より多摩美術大学造形表現学部デザイン学科教授。2001年NPO法人サンセンター設立。同理事。現在に至る。著書「ピタゴラムデザイン」(旺文房)、「JISHA安全標識」(中央労働災害防止協会)、「サイエンスコミュニケーション1.2」(旺文房)、「ビジュアルインターフェース」(共立出版)、「マーク記号の大辞典」(監修・学研)など多数。受賞「SDA賞大賞、ブルーノ・ニエノール賞、東京都広吉物産優秀賞」他多数。

「UDの現場から構想される安心へのデザインカ」

ユニバーサルデザイン(UD)は、人間の多様性や共生性、時間的な変動性といった事実(デザイン)が向かい合い、道具や環境の新たな次元を創出していく活動といえる。それを推進していく方法としてユーザー参加型デザインは主要な役割を果たしている。

ユーザー参加型UDプロジェクトを安心へのデザインという観点からとらえると、デザイナーとユーザー相互の信頼関係や、可能性の予感の共有、タイムリーな連携性、地域的持続的関係性といった、「安心へのデザインカ」の構図が見えてくる。

鉄の開発や家具産地のプロジェクト、公共建築のUDなど具体的な事例を紹介しながら安心へのデザインカとは何かとめてみたい。

「安心、安全のデザインカ」

コーディネーター 長谷高史

デザインの目的はヒトにとって美しく心地よいモノ、場、空間、環境、情報等の創造と言われて久しい。しかし、21世紀になって人の存在をも揺るがしかねない地球環境がクローズアップされ、近年では米国の元副大統領のゴア氏による「不都合な真実」が注目を浴び人間の存在自体が地球温暖化の元凶のようにまで言われている。この夏の酷暑を経験すると「地球温暖化」を身をもつて体験したことにより、危機感が増してきている。また強烈な台風や大地震等の頻度も増しているように思われる。

このような日常において、デザインで解決出来る、または、しなげられなければならない課題は多い。中でも安心、安全は人の存在に最も近く、また保障されるものでなければならぬ。しかし、前述のように多くの災害だけでなく日常においてもそれが脅かされている現状がある。

今回のシンポジウムでは3人のパネリストからそれぞれ違った視点からの「安心、安全のデザイン」の事例を紹介したくと共に、事例から導かれた問題やアプローチ、デザイン方法、手法などをディスカッションの主軸に置き、「安心、安全のデザインカ」を探りたい。

国際標準化機構 (ISOジュネーブ) ではこれまで50年余り、135ヶ国の参加を得て200以上のTC(専門委員会)が、単位や紙サイズの規格、自動車や原子力、製図、色表示、太陽エネルギーから水質に至るまで、あらゆる工業技術の標準化に取り組んできた。その中でもTC145(図記号専門委員会)では30年来、案内用、機器 装置用、安全 警告用の3分野で用いる図記号(ピクトグラム/絵文字)の国際標準化を推進。案内用では、ワールドカップ開催に際して、国土交通省が急いで普及させた110種があるが、ISOの国際規格案からは外されている。機器 装置用では、3500種余りの図記号がすでに規格化されている。自動車の運転席やオーディオ機器でおなじみのものも多い。安全 警告用図記号では永年の審議を経て、「安全サインの通則と耐久性」並びに「避難誘導サインシステム」が先般国際規格になった。「避難誘導サインシステム」に対しては、ホテルやレストランや劇場など一般施設のインテリアが損なわれるため、我が国(太田担当)だけが反対を表明してきた。国際統合化の求めにより、このたびそれが国際規格になろうとしている。ISO/TC145の現状と問題点を認識し、安心、安全のための規格化について一緒に考えたい。